

これからの時代に 大学教育が果たすべき役割

後藤 滋樹 (早稲田大学)

即戦力
実務



アカデミック

NP完全

$n (\log n)$

計算量 (complexity)

例示に過ぎない

インターン
寄附講座 (連携)

1

例題：計算量 (complexity)

- 1980年代の日本の人工知能プロジェクト
第五世代コンピュータ, ICOT
海外の研究者も参加, Dr. Ehud Shapiro
「日本の大学ではcomputational complexity
を教えていないのですか？」



- 教えていますよ
A.V.エイホ, J.E.ホップクロフト, J.D.ウルマン 共著,
野崎昭弘, 野下浩平 訳者代表「アルゴリズムの設計と解析 I, II」
サイエンス社, 1977. (後藤が5章と7章を担当)
- **祝** Alfred V. Aho, John E. Hopcroft, Jeffrey D. Ullman
2017年度 C&C賞 受賞記念 特別講演会
2017年11月30日(木) 14:00-16:30 NEC本社ビル 講堂

2

大学の問題

- 古井貞熙（ふるい・さだおき）
豊田工業大学シカゴ校 (TTIC) 学長
 - 2017年01月05日, <http://webronza.asahi.com>
「忙しさ」に自滅する日本の大学
アメリカの教員と、これほどの落差
 - 2016年11月28日, <http://webronza.asahi.com>
日本の大学が「自滅」しないための改革方法
副学長の意識改革と事務職員の地位向上を目指せ
- 上を引用した論考
後藤滋樹「大学人の勤務時間」情報処理学会誌
p.385, 2017年5月号.

3

企業の問題

- 新規事業は「掛け持ち」で行う
フルタイムで新規事業に従事できない
- Michael Roberts
EDUCOM
Internet2 全米大学連合ネットワーク 1997
ICANN インターネットガバナンス 1998
「日本人は同じチームが全部やるのか？」
- 日本の組織は
「持ち場、持ち場で出来る限り頑張る」
これが『失敗の本質』

4

低い mobility（幕藩体制）

- 青木昌彦先生のシリコンバレーモデル
技術者が動く（シグナル）のを見てベンチャ
キャピタルが投資
共生関係



- 学部と大学院とが同じ入子
同窓会のような教授会
公務員も不動

5

避けられない「重点化」

- これまでの日本
大国 as number two
ほとんどの産業分野、ほとんどの研究分野
- 小国は「普通のことにはやらない」**できない**
研究テーマを重点化していたスウェーデン
- もはや number two ではない日本
それでも世界が期待している日本
重点でない領域を**止める**
誰が決められるのか
市場か？ 独裁か？

6